

# 新潟歴史資料救済ネットワーク



▲中越地震被災当初の小千谷市T家土蔵の現状

○新潟歴史資料救済ネットワークは、2004年10月23日の新潟県中越大地震をきっかけにして翌月結成された、新潟県内の個人・博物館・図書館・大学のネットワークです。新潟大学に事務局を置き、ゆるやかなネットワークで結びつき情報交換していること、図書館や博物館の積極的な活動が目立つことなどが特徴としてあげられます。

## ○大規模な活動

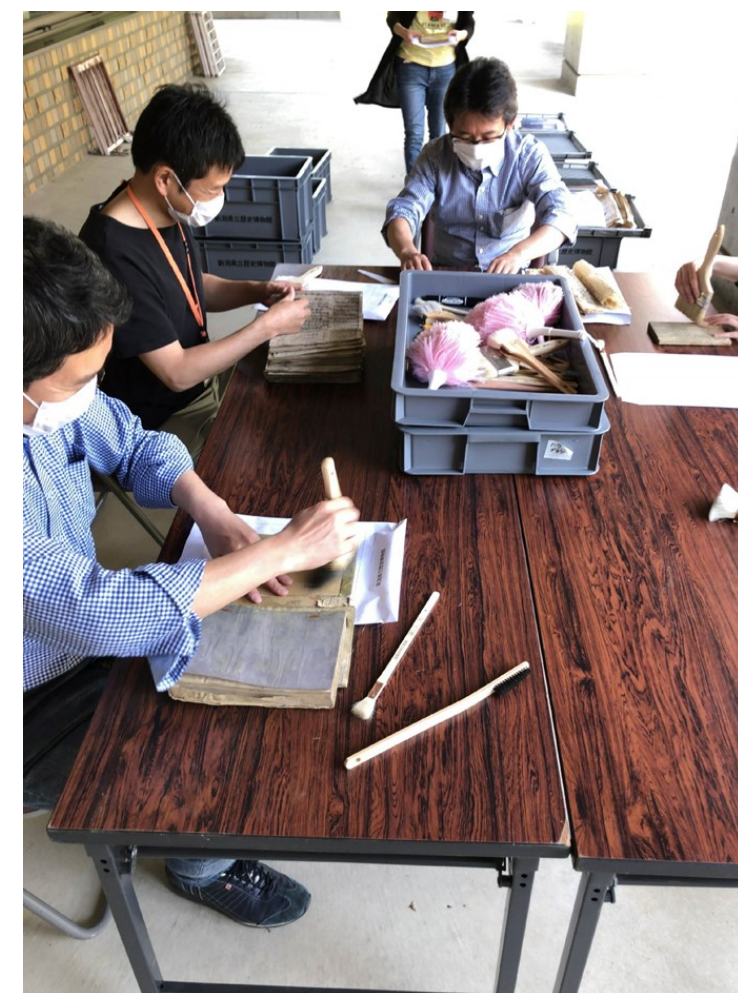
中越大地震に際しては、小千谷市T家土蔵の悉皆保全から活動をスタートし、山古志地区の旧山古志村民俗資料館、旧中学校寄宿舎（文書史料保管場所）の全点保全など大規模な活動に大勢のボランティアを動員して臨みました。2007年7月16日の新潟県中越沖地震に際しても、刈羽村郷土資料館の収蔵物避難などを大勢のボランティアの手で行いました。



▲2005年5月の山古志村民俗資料館搬出作業

## ○定期的な保全活動

中越地震で全点避難させた古文書や民具、その後の災害（2007年中越沖地震、2011年新潟・福島豪雨等）で被災した史資料について、博物館・図書館と連携しながらボランティアの形で長くクリーニング・整理・目録作成・収納替え・収納地での管理等に携わってきました。一部は目録・図録等が刊行されています。



▲雲洞庵文書のクリーニング作業



▲保管施設の旧種芋原小学校での管理作業

## ○2024年1月能登半島地震への対応

1月1日の能登半島地震では新潟県では最大震度6弱を観測し、とりわけ地盤が軟弱な新潟市西区での**液状化現象**を主とした家屋被害、遡上高最大5.8mを観測した上越市や佐渡市での**津波被害**が主な被害としてあげられます。2/2日現在新潟県の家屋被害は13960棟にのぼり、その大部分が**新潟市西区・中央区に集中**しています。

新潟市では1/24から罹災証明書発行が開始されましたが、2/2現在申請数11605件に対し交付数1123件と、大規模災害のための調査の遅れで証明書発行が大きく遅延しています。罹災証明書が発行されると本格的に被災建造物の取り壊しや改築工事がはじまるため、**災害ゴミとして歴史資料が廃棄される危険が高まる**ことが予想されます。

新潟史料ネットでは早速1/2、県内全市町村に「**歴史資料を処分しないでください**」の呼びかけを行った他、片付けボランティアの活動開始に合わせて新潟市西区社会福祉協議会ボランティアセンターに呼びかけを行いました。こうした活動の結果、これまでに新潟県文書館が新潟県歴史資料保存活用連絡協議会（新史料協）会長名で会員の各市町村に向けて歴史資料保存の呼びかけを、新潟市文書館が同様に市民に向けて歴史資料保存の呼びかけを、また佐渡博物館からは市内各公民館に向けての呼びかけを、それぞれ行っていただくことが出来ました。

2/2現在具体的レスキュー活動の依頼はまだありませんが、判明した被害の全容をMLで常時共有しつつ、いつでも対応できるよう準備を行っています。また、震源に近かった石川県の関係者とも連絡を取りながら、**広域支援に向けた準備**を進めているところです。



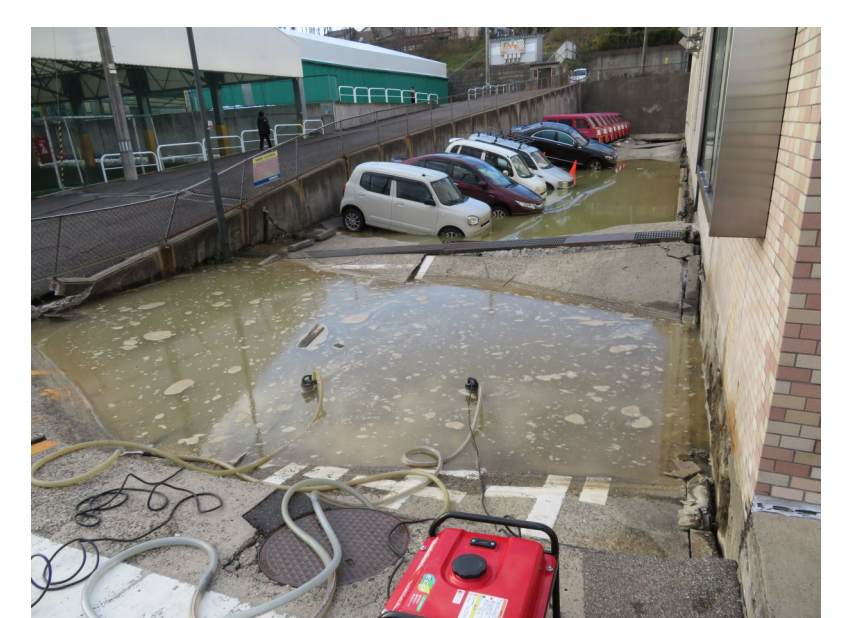
▲液状化現象による噴砂と沈降



▲固定釘が抜け倒壊した書架（新潟大学）



▲基礎崩壊により倒壊した家屋（小屋）



▲液状化現象による沈降と水の噴出

## ○新潟地震60年・中越地震20年

新潟県では2024年、新潟地震60年・中越地震20年の節目の年を迎えます。そこで当ネットでは、新潟地震が発生した6/18に近い6月25日（土）に新潟大学五十嵐キャパスにて記念シンポジウムを、その前後の期間に新潟大学旭町学術展示館で企画展示を行うべく、準備を進めています。

Webサイト <http://nrescue.s1006.xrea.com/>  
連絡先（事務局）新潟大学人文学部原研究室  
hara@human.niigata-u.ac.jp

